

令和7年度 第2次蒲郡市多文化共生推進プラン策定委員会 第1回会議

日 時 令和7年9月25日(木)

午後1時30分～

場 所 市役所本館303会議室

1 協働まちづくり課長あいさつ

2 プラン策定委員会 委員紹介

策定委員会委員名簿(資料1)

3 議事

(1) 委員長・副委員長の選任について

※欠員委員1名

(2) 第2次蒲郡市多文化共生プラン策定の概要について

- ① 蒲郡市の現状について
- ② 第2次多文化共生推進プラン策定の目的について(資料2)
- ③ 策定のスケジュールについて
- ④ 「外国人市民意識調査の概要」及び「その他関連調査の概要」について

(3) 「外国人市民意識調査項目」及び「日本人市民アンケート調査項目の概要」について (資料3)

(4) 今後のスケジュールについて

《参考資料》

- ・策定委員会委員名簿「資料1」
- ・第2次蒲郡市多文化共生推進プラン策定の概要「資料2」
- ・外国人市民意識調査項目「資料3」
- ・日本人市民アンケート調査項目「資料4」
- ・蒲郡市多文化共生推進プラン(本編及び概要版)「参考資料」
- ・令和6年度進捗状況調査票「参考資料」
- ・2次プラン策定委員会の設置要領「参考資料」

3 議事

(3)「外国人市民意識調査項目」及び「日本人市民アンケート調査項目の概要」について

外国人市民意識調査項目について

- A 委員：経年と表記されているものについては前回調査と比較できるということか。
- 事務局：はい。
- 委員長：資料3 問1～問9について何かご意見ありますか。
- B 委員：問8の会社役員と会社員や、契約社員、派遣社員というのは正しく理解するために、一緒にしないで分けた方がよいのでは。
- 事務局：修正いたします。
- 委員長：資料3 問10～問18について何かあるか
- C 委員：問12ですが、外国人相談窓口以外にも市役所全般の相談窓口にあてはまるものがないので入れた方がよいのでは。問15、問16について「正しく理解できることに不安があるか」という選択肢も入れた方がよいのでは。
- 事務局：検討します。
- 委員長：問12に社会福祉協議会は必要か？
- D 委員：もし可能であれば社会福祉協議会を入れてほしい。
- E 委員：関連団体ではないが、困ったとき一番初めに市役所ではなく警察に来る方が非常に多い。年金などの相談も警察に来たりする。警察の名前を入れていただく方がよいかも。「事件事故、災害が発生したときにどこに連絡しますか」といった質問を入れていただくと署に持ち帰りやすいので検討してほしい。
- D 委員：問16で、窓口に来たときに言語が通じないので、言語翻訳の機械を使ってやっているの
で、「日本語翻訳ソフトを使えば読める」などが必要なのではないか。
- 委員長：問16は翻訳されたものが読めるかではなく、書いてある日本語を読めるかどうかという
設問です。
- D 委員：それなら大丈夫です。

- 委員長：資料3問 19～問 27 について何かご意見がありますか？
- F 委員：問 19 でたくさん選択肢があるが、子どものことが一番大切かなと思っている。アンケートをとった後にどうしていくか分からない。こういった考えで入れているのか。
- 事務局：もちろんアンケートで聞き、施策に活かすために考えていく必要があると考えている。
- F 委員：課題として聞きたい目玉商品みたいなものを絞った方がよいのではないか。
- 事務局：この設問（問 19）は、まず愛知県と比較することができて、蒲郡市特有の課題が見つかります。また、国籍ごと・年代別に困っていることがわかり、それぞれの世代や国の人に詳細なニーズが分かり、ダイレクトに対策を考えていくことにつながっている。
- G 委員：葬儀はどうしたらいいかなど実際に相談をもらうことがあるので、問 19 は老後だけでなく死亡・葬儀のことも入れてほしい。また、問 20 は給与についてわからないことがあるとか確定申告や税金等、そういうところも入れてほしい。給与の仕組みがわからないとかそういうところ。
- H 委員：蒲郡市特有の困りごととありましたが、移動手段がない人が多い。車がないと困る。問 19 に「移動手段がない」という選択肢があってもいい。問 21 で上から3番目に「保育所が見つからない」、「手続きがわからない」とあるが、自分が肌で感じるのは、保育所があることを知らない人がいっぱいいる。「子育てサービスの仕組み、情報がわからない」という設問があるといいと感じる。
- I 委員：子育て支援課の HP に毎月5日に保育園の案内をしたり、広報を載せてくれたりしており、それを見てきてくれる人がいるので、設問としては入れても入れなくてもいいと思う。
- 委員長：「子育てサービス」という単語で伝わるものか？
- I 委員：「子育てサービス」だと、全部無料で何でもかんでもやってくれるように感じてしまうかも。
- 委員長：子育てに関する行政の支援や子育てに関する情報ではどうか？
- C 委員：関連して、おそらく「あることを知らない」人が多い。困りごとがあるかという質問だと、特にないと回答してしまいそう。こういうことをやっていることを知っていますか？という形で制度を聞いていく方がよい。問 21 に問 20 のように「その他（具体的に）」を入れてもいい。
- 事務局：設問を増やしすぎることは要検討だが、その他を入れる等考える。
- B 委員：問 21 子どもの発達に関する選択肢があってもよい、問 24 について、「活動自体を知らない」というのもあるといいのではないか。
- 事務局：問 24 は問 25 で参加しない理由として「存在を知らない」を入れる。問 21 は入れる方向で。
- D 委員：問 19 について、ゴミ出しの話がよく出てくるのでそれを入れられないか。
- 事務局：ゴミ出しについては外国人よりも日本人向けの調査で聞いていく。
- D 委員：問 24 地域の活動という表現でご理解いただけるか？前回調査ではちゃんと聞けていたの

か。注釈などでどんな活動があるか入れてもいいのでは。

- 委員長：資料3問 28～問 30 について何かご意見がありますか？
- 委員長：問 28 は成果目標にあたる質問とありますがご説明をお願いします。
- I 委員：問 28 が分かりにくいと思った。
- 事務局：回答画面としてはわかりにくくはないと思う。
- J 委員：問 28 に「わからない」を入れるのはどうか。
- 事務局：入れる方向で考えます。割合については「わからない」を除外して算出します。
- B 委員：問 28 の項目が多くなるようであれば、「飲食店に行くとき」等を外すのは？
- 委員長：飲食店について、個人的な選択肢に感じるが何が目的で入れたのかとを感じる。
- 事務局：そういった面も含めて検討します。
- E 委員：普段の生活に密着した質問が多くて、災害の備えをしているかのところ等に「困った時どこに連絡するか」を入れるのはどうか。
- 事務局：前提として設問が多すぎると回答率が下がるが、設問の追加は可能。必ず入れる・なくすと断言はできないが、この設問はいらないなどもあるか聞きたい。★印→前回比較
- A 委員：宗教に関する設問は入れてもよいか。
- 事務局：宗教については設問に入れません。
- B 委員：問 26 で、「日本の文化やマナーをどの程度取り入れたいか」という設問の表現が、同調圧力（「取り入れるべきだ」みたいな）を感じて誤解を招く可能性があるのではないか。
- 事務局：日本人も外国人も双方について知らないといけないと思う。双方が受け入れたいと思っているかをまず聞くためにこういった設問を取り入れている。
- B 委員：どう聞いたらいいかわからないが、「文化やマナーに戸惑うことがあるか」というような気持ちや心情の表現の質問の方がよいのでは。過敏ではあるかもしれないが、「取り入れたいか」といった聞き方が誤解を招く可能性があるのではないか。戸惑うことがある、違和感があるなどの形の方が表現としていいのでは。
- 事務局：聞きたいことは戸惑っているかでなく、日本社会に入っていきたいかということ。日本の風習や地域のルール（自治会・清掃等）を理解し、地域社会とつながりたいと思うかを聞きたい。
- B 委員：そこはもう既に聞いているのでは。「ルールを取り入れたいか」という表現は日本が主体に感じる。多文化共生はお互いに変わるという気持ちが必要。これだと、外国人側だけが変わる気持ちがありますか？というニュアンスに聞こえる。
- 委員長：マナーなのか文化なのかルールなのかも明確化されていないのでは。
- 事務局：文化ではなく風習・ならわし。マナーという表現は異なるかも。
- 委員長：どうするか事務局協議しておいてください。

日本人意識調査について

- C 委員：大きく気になるところはない。設問項目としては気にならないが、回答項目でマイナスのところがあったりする。例えば問 5 はプラス面とマイナス面、問 6 はマイナス面しかないので、これありきの設問にならなければいいと思う。問 6 の前にプラスの部分のもっと具体的なものもあればいいのではと感じた。
- F 委員：多文化共生という言葉自体が初めてだが、コミュニケーションをとらないといけないということはわかる。ただ具体的にどうすればいいのか。相手を知らないといけないというところからスタートで、100%求めることは無理だと思う。コツコツ積み上げないといけない、まずはハードルを上げないで取り組むことが必要。
- E 委員：問 7 について、非常に難しい設問だと感じる。あまり意識することがないのではないかと。
- 事務局：周りであるかどうかを聞いている。偏見の有無を取りたい。
- E 委員：あなたの周りに外国人への差別・偏見の意識を持った人はいますか。という設問の方が分かりやすいのでは。
- 事務局：検討します。
- C 委員：問 10 の、日本人市民と外国人市民の交流の場の創出とあるが、何かイベントで交流の場を作るとかではなく、もっと日常的に外国の人が市にいるということがわかる場が必要だと思う。
- 事務局：表現を見直すか、選択肢を増やします。
- 事務局：日本人調査に「外国人との交流意向」を入れる質問を入れ忘れていたので入れます。

以上